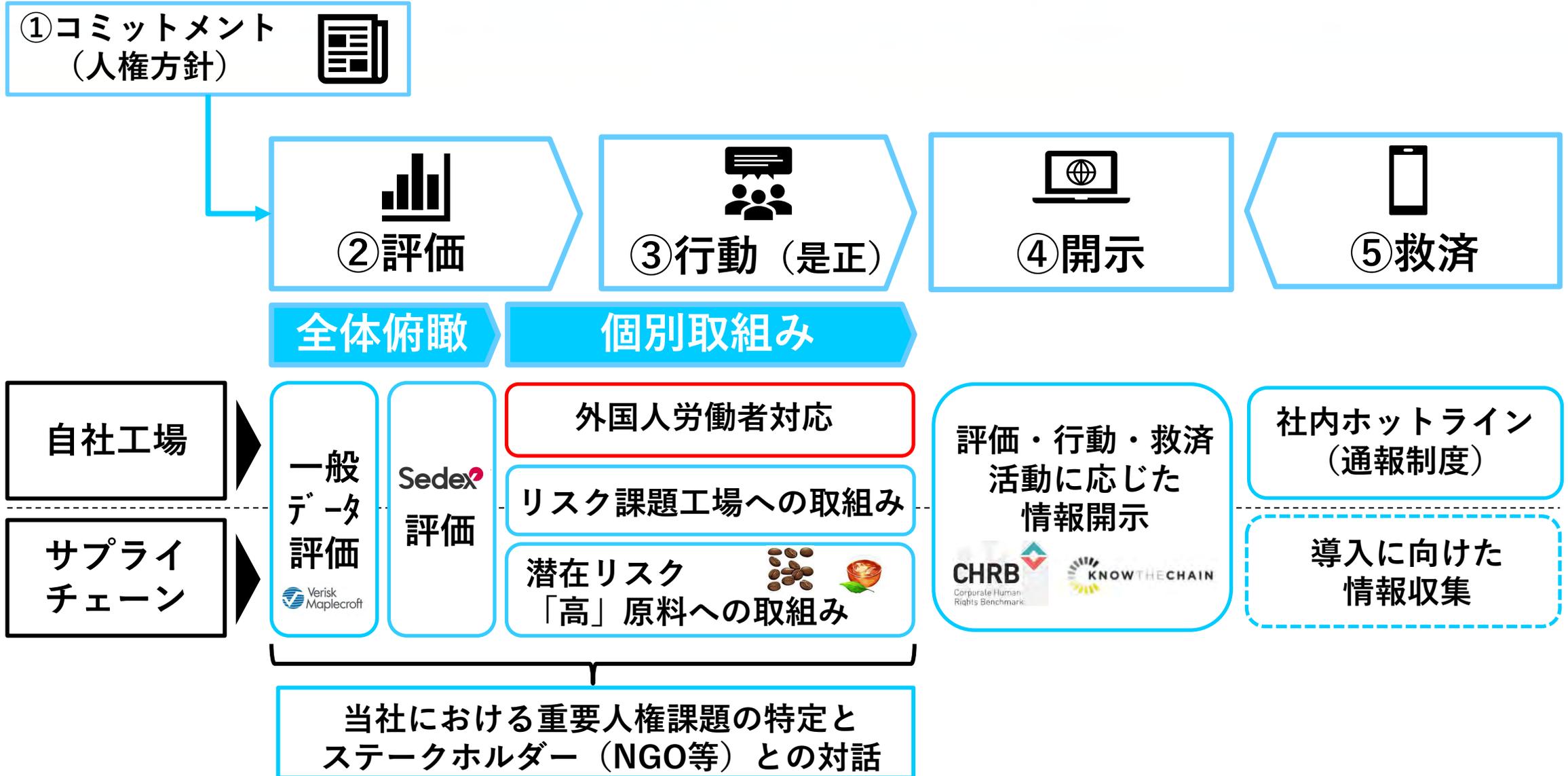
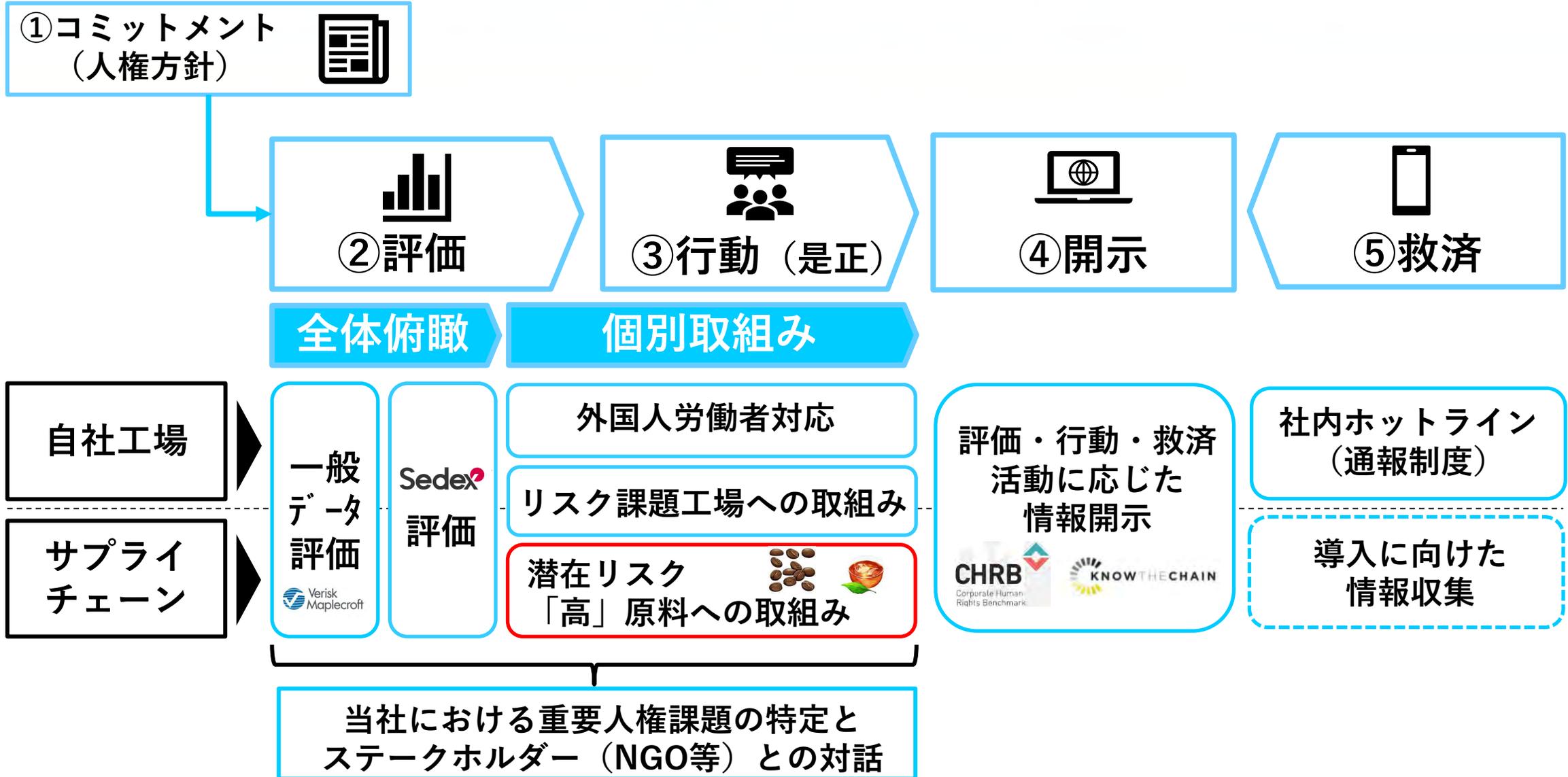


# 人権デュー・ディリジェンス 取り組みの全体像





# 人権デュー・ディリジェンス 取り組みの全体像



# 個別原料における評価の取り組み

(Step 1)

## 潜在リスク評価

一般データ (※) を用いて22の  
主要原料を対象に124の  
「原料×産地」のパターンを  
評価 (強制労働、児童労働の  
リスクを評価)



※Verisk Maplecroft社の  
グローバルリスクデータ

(Step 2)

## リスク原料の特定

潜在リスク「高」原料×  
高インパクト (購買実績の  
高い原料) の観点で対象原料  
を絞りこみ

### 《強制労働》

コーヒー豆・ウーロン茶・  
エタノール・砂糖

### 《児童労働》

コーヒー豆・砂糖

(Step 3)

## 評価原料の選定

サプライチェーンの可視化の  
しやすさや情報入手可能な  
原料を優先的に評価原料を  
選定



コーヒー豆



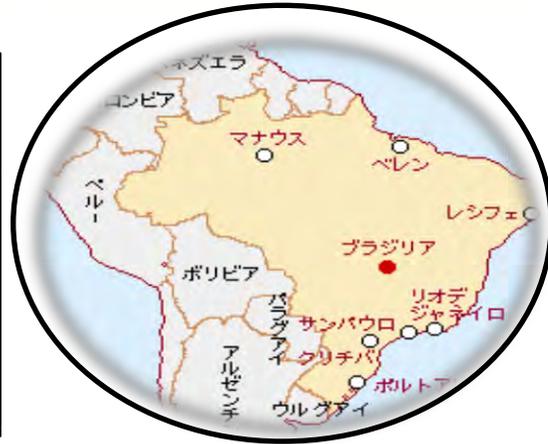
ウーロン茶

抽出

コーヒー豆・糖類・  
ウーロン茶・  
エタノール・ビタミンC・  
クエン酸・オレンジを選定

# コーヒー豆での取り組み推進の方向性

## 《ブラジル》



## 《ウガンダ》



Air quality and emissions	Nutrient Management
Biodiversity	Plant Material Selection and Propagation
Chemical control	Soil Management
Farm Management and community	Waste Management
Integrated Pest Management	Water Management
Labor Conditions	

昨年末に取り組み開始、本年度活動本格化

### 取り組み概要

- 商社が連携するグローバルなサステナビリティ評価機関と協働し、農家に対する環境・社会支援を行う

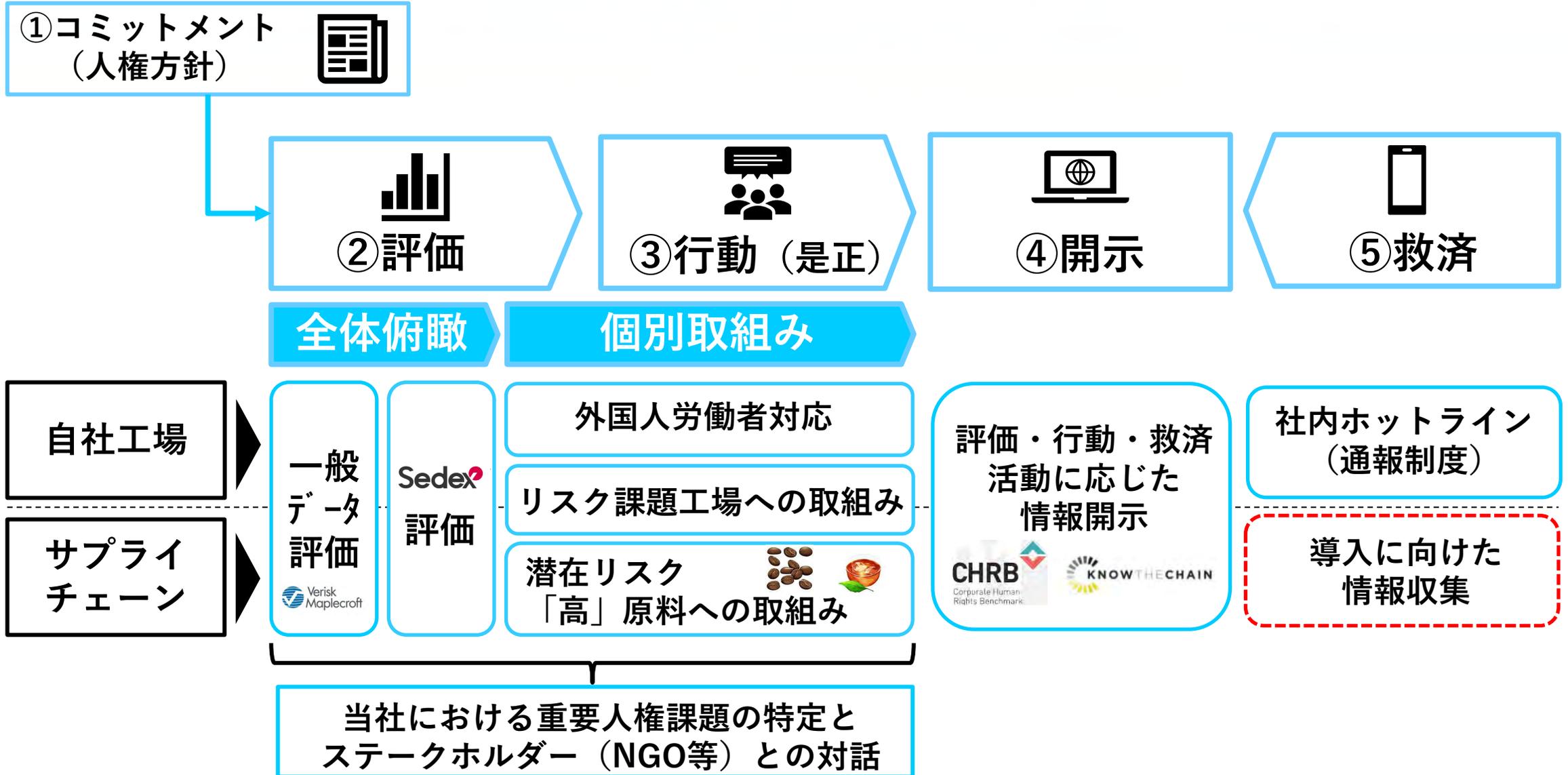
### 取り組み概要

- 商社が連携するグローバルなサステナビリティ評価機関と協働し、ウガンダの75の農家に対する環境・社会支援を行う

- 水衛生状況の改善
- 調理用ストーブの提供など

重要原料であるコーヒー豆について、SCを熟知する商社と連携し、現地での共同取り組みを実施

# 人権デュー・ディリジェンス 取り組みの全体像



# 国内SCにおける救済システム パイロット導入

～外国人労働者向けに救済受付システムの導入～



JP-MIRAI

対象者	国内の外国人労働者(技能実習生含む)
対象SC	上記対象者の存在が確認されるサプライヤー・製造委託先様
費用	サプライヤー負担なし

●団体名:一般社団法人 JP-MIRAI

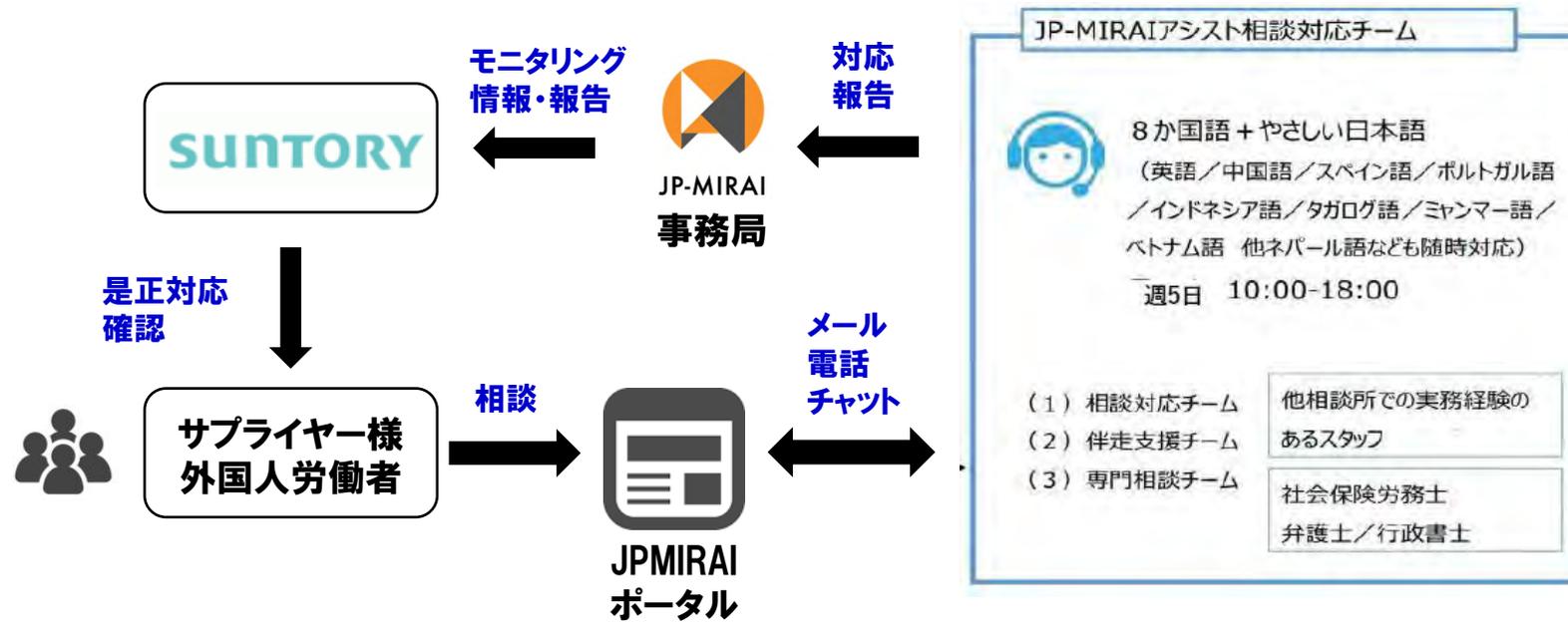
(責任ある外国人労働者受け入れプラットフォーム)



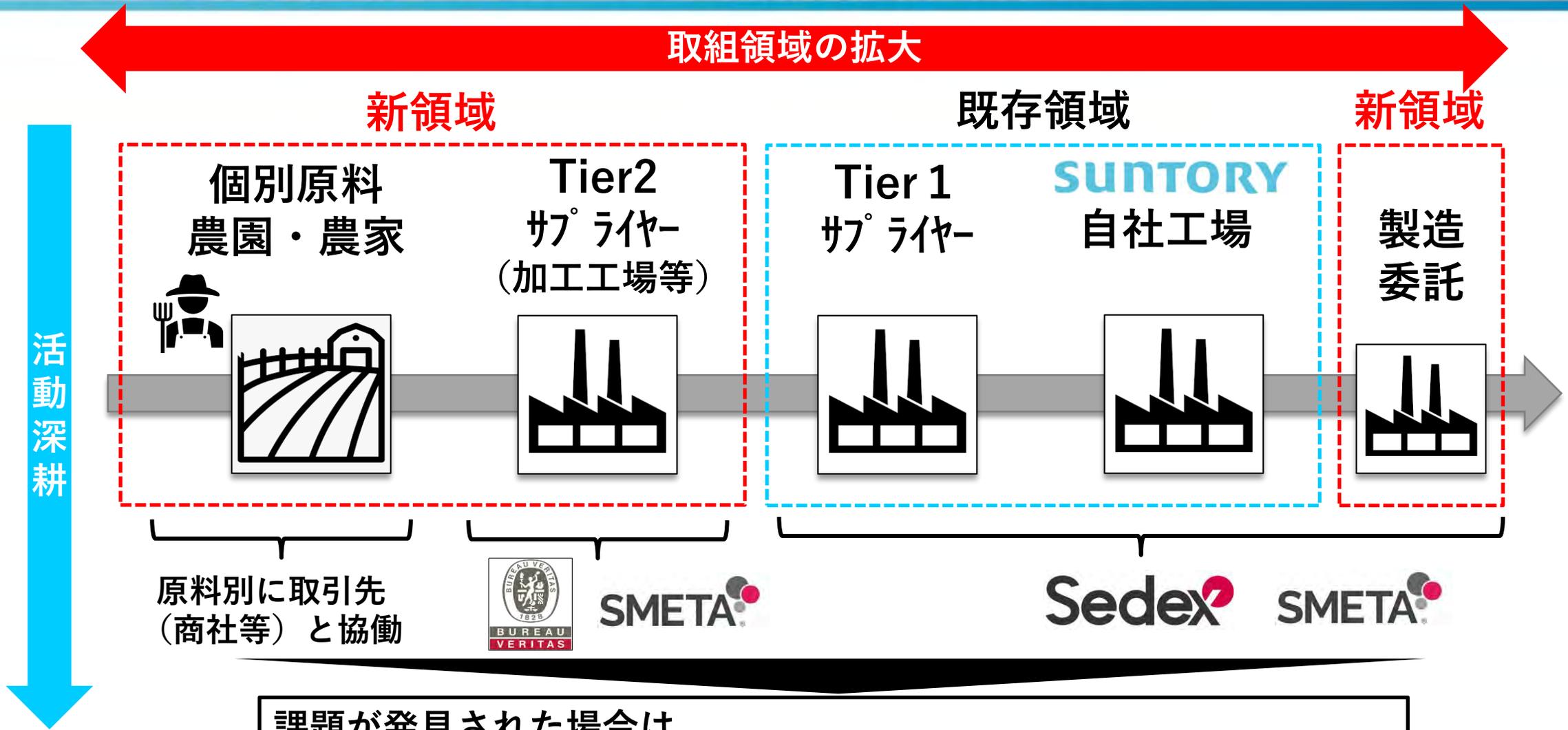
Japan Platform for Migrant Workers  
towards Responsible and Inclusive Society

●対応フロー

[Home - Japan Mirai \(jp-mirai.org\)](http://jp-mirai.org)



# サプライチェーンにおける取組みの考え方（中期）



課題が発見された場合は、

- ・ 対象サプライヤーとの直接的な対話を通じた是正の取り組み
- ・ 今後のモニタリングに向けた救済メカニズムの構築等を検討

# (個別対応事例)

# 外国人技能実習生の雇用環境

## 外国人技能実習生の雇用実態のある国内グループ会社にて、人権に関するアセスメントを実施



生活について話しながら、安心、安全に、適切な労働・生活環境で過ごしているのか、問題がないか等についてヒアリングを行った

## <人権NGO(CRT)によるインタビュー実施>

- 日時： 21年11/12・17 (2日間)
- 方法： 対面による集団面談
- 実施要領：2工場にて対象者4-5名×CRTインタビュー者2名

### 【CRT様からの報告】

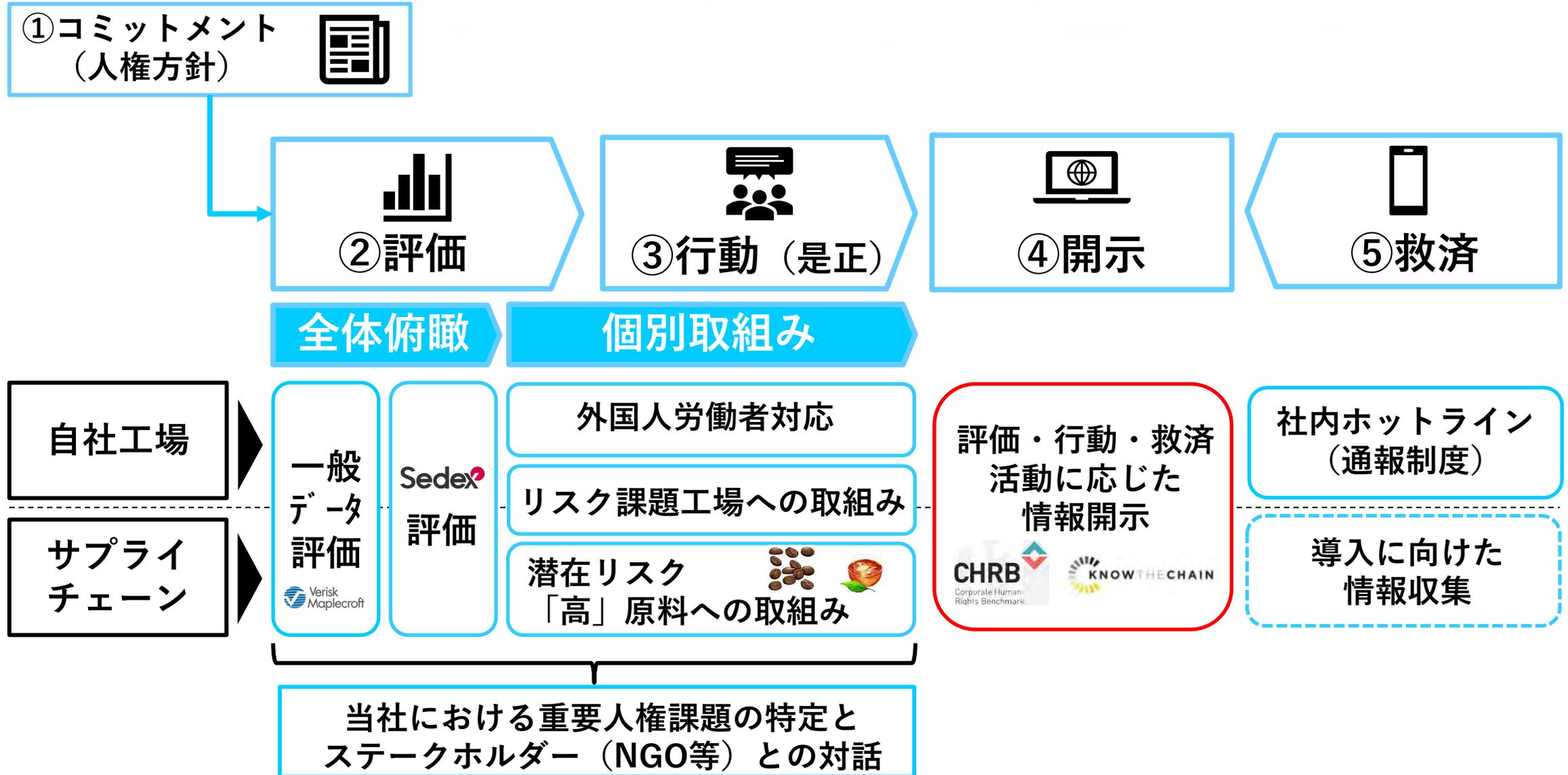


- 外国人労働者と日本人スタッフとの**関係性は良好であり**、工場側には重要な戦力として外国人労働者を位置づけ、大切にしている意識がみられる。
- 工場内では**非常にオープンなコミュニケーションがとられ**懸念事項等を現場リーダーへ逐一報告することが習慣化されている。**実習生は工場長を父(都筑工場)、リーダーを母(高津工場)のように慕っており**、工場外の相談も気軽にできる間柄にあるように見受けられる

CRT様からも関係性は良好との評価を得て、取り組みについての情報開示を実施

**2024年2月に雇用実態に関する再インタビューを実施予定**

# 人権デュー・ディリジェンス 取り組みの全体像



# 今後の取り組み検討領域



従来までの上流領域での取り組み中心の活動に加え、  
今後はバリューチェーン下流領域での取り組みも視野に検討していく

# まとめ

- 人権DDの取り組み領域については自社とサプライチェーンを軸に、全体的なリスク俯瞰のツールとして**Sedex**を活用
- Sedexツールは自社のガバナンスにも活用し、様々な潜在的な人権リスクを把握する為の「**健康診断**」ツールとなっている
- Sedexにより発見された課題について**是正**の対応を図り、迅速な課題解決に繋げることが可能
- 一方、G会社など中堅・中小企業向けに潜在的リスクについて**自己評価**を実施  
外国人労働者の雇用状況や本人達が脆弱な立場に追われていないかについて「**対話**」を重視
- まずは**自社**から活動領域を少しずつ広げていく形で、優先順位をつけ**やれるところから取り組む**
- 対象とする領域が広範に及ぶため、人権DDの取り組みに終わりはないものの、この取り組みが今後、リスク対応だけでなく**付加価値に繋がっていくこと**を期待して取り組みを進めたい

終